

第1回 学校運営協議会 議事録

実施日：令和5年5月22日（月）

時間：15：30～16：50

場所：六郷高等学校会議室

1 委員委嘱・出席者紹介

（委員名簿）※敬称略

佐藤 良一	六郷高校同窓会会長（地域代表）
栗林 守	美郷町教育委員会教育長
後藤 智之	教育振興会会長（外郭団体代表）
熊谷 尚輝	P T A会長（保護者代表）
西村 美智恵	前P T A会長
西鳥羽 裕	美郷中学校校長（地元中学校代表）
檜森 吉裕	前美郷町商工会会長（地域代表）
小松 勉	地元町内会代表（地域代表）
鈴木 正洋	美郷の話題編集・発行（地元メディア代表）
藤岡 誠人	町活性化団体（地元N P O団体代表）
高橋 郷	福祉施設経営者
岩田 稔	元小学校校長
伊藤 哲	校長

2 委員長挨拶

学校運営協議会がスタートして5年目となる。会の前身である「六郷高校の未来を考える会」から通算で8年目になる。本校を取り巻く生徒募集の状況は大変厳しい。委員の皆さんから様々な御意見をいただきながら、数値目標をもって学校と地域がより連携していくことが望ましい。関係各方面でのご理解とご協力を引き続きお願いしたい。

3 委員長、副委員長の選出について

事務局案を承認

会長 佐藤 良一 様 副会長 栗林 守 様

4 学校運営方針の説明と承認

校訓や学校教育目標は昨年度と変更はない。しかし、より具体的に本校がどう動いていくかを示した中期ビジョン（5カ年計画）は大きく改訂した。生徒募集に苦しむ本校の実情を見ると、福祉科は一定数は確保できている。しかし本校はくくり募集のため、全体の入学者が減ると福祉科に進む生徒も少なくなる。そこで本日は、魅力ある学校づくりという大きなテーマで話し合いをしていただきたい。学校運営協議会の委員は本校の職員と同様に学校の運営に携わっていただきたい。その上でお知恵とご提言を色々をお願いしたい。具体的に話し合っていたいただきたいテーマは、本校を志願する生徒をどう増や

していくかである。方策について中期ビジョンに示しているが、これ以外に何かあったら、忌憚ないご意見をお願いしたい。

今年度は、本校の教育活動をいかに地域に周知し、新たな魅力を創出していくかを第一に考えて努力していきたい。

質疑応答の後、拍手にて学校運営方針を承認いただいた。

5 年間計画の説明

6 協議（委員長と副委員長による進行）

（1）授業改善による学力向上

司会：佐藤委員長

後藤委員：他校種との連携とはどんなものか。

福祉科長：福祉科では、美郷町内の小学6年生が体験学習で来校している。今年は、大曲支援学校との交流授業も計画されている。

後藤委員：美郷中学校との連携はないのか。

福祉科長：中学生は体験入学があるので、これをひとつの機会にしている。

岩田委員：日本赤十字で福祉学習者に向けた講演を実施しているのを耳にしたことがある。専門的な立場にいる方から話を伺い、本校の生徒に希望や見通しがもたせられるような講話の機会をもっていただきたい。

伊藤校長：ICTについて、本校では一昨年からはタブレットを使用している。本校職員のICTのスキルは高く、生徒のレベルもなかなかである。生徒の興味・関心を高めさせるためにタブレットを使った新しい学習が実践されている。全体的にいい方向で動いていると思う。

西鳥羽委員：ICTをはじめ、子どもたちに手厚く授業が行われていることが分かった。現在、子どもたちに配慮している授業などあれば教えていただきたい。

教務主任：その授業時間内にできることを明示することで生徒自身も目標が明確になり、授業に取り組みやすくなる。また、これによって学習意欲が高まってくる。こうしたことを全職員が授業で実践している。

（2）特別活動の充実

司会：栗林副委員長

司会：ボランティア活動や学校行事、ホームルーム活動の充実や生徒会活動の活性化が目標として挙がっている。

伊藤校長：これまでのコロナウイルス感染予防に伴う活動制限からコロナ禍前の動きに戻していきたい。活動の説明をお願いしたい。

福祉科長：コロナ禍でも関係機関の御指導の下、活動を実施できていることに感謝を申し上げたい。特に、芝桜を植える作業では、すぐに本校に声をかけていただいてありがたい。また、以前は各施設の夏祭りボランティアや町の行事や祭りにも参加させていただいている。今後もお声がけいただければ参加したい。普通科の家庭コースでは地元保育園の園児たちと交流する機会が定期的にあった。

檜森委員：昨年は夏祭りの企画段階からボランティア活動に参加いただいた。今年も開催する予定なので、相談させていただきたい。竹うちへの参加者が年々減っているため、現在SNSで参加者を募っている。直接の参加は難しいだろうが、間接的にも地域の伝統行事をつなぐ活動に参加してほしい。また、学校として素晴らしい活動を多く展開しているので、それを積極的に個人単位、あるいは学校単位で情報発信してほしい。六郷高校が楽しく魅力ある学校であるということをPRできればよいと思う。

司 会：生徒あるいは学校からの発信として考えていることや実践していることを紹介していただきたい。生徒の発想を大切にしながら任せてみるということについての考えを伺いたい。

伊藤校長：前任校（大曲農業）でも情報発信においてホームページの管理は職員にとって負担になっていた。そこで行事の直接の担当者が簡単な紹介をペーパー1枚でまとめ、それをホームページにリアルタイムで掲載していた。また、農業クラブのインスタグラムは生徒によって管理されていた。ある程度は生徒に任せるということも考えてよいかもしれない。2年前の本校教頭在職中、過去3年間の進路実績やCS通信、畑日記などを広報活動の一環で各中学校に送付した。こうした広報の効果があつたのか、翌年の本校入学者は若干ながらも増えた。また、これからは中学生だけではなく小学生をターゲットにして本校をPRしていく必要があると考えている。その意味で2年前から「家族でプログラミング教室」を開催している。普通科の高校としては先駆的な取組だった。こうした戦略的な取組を学校の広報活動につなげていきたい。しいたけや水耕栽培などを生徒会の取組として今年度はスタートさせている。他校でやっていないことをどのように周知していくかが今後の課題である。

司 会：情報発信は今後どの世界においても肝要になってくる。六郷高校の今後の広報活動に期待したい。ボランティア活動について、学校から町や各企業にもっと相談してもよいのではないかと思う。

鈴木委員：ボランティア活動において地域の大人が計画し、それを手伝ってもらうのが従来型だったと思う。これからは生徒の成長につながるボランティア活動を我々は企画していくべきだと思う。そのためにも生徒たちがどのような活動をしたいのか、またそれに当たってどのような手助けが必要かを先生方にはヒアリングをしていただくとよいかもしれない。

司 会：全ての行事に際して、生徒の希望をヒアリングして、計画と実践に移していくのは大変な作業である。生徒とさらに相談して、一部の行事をそのように実践してみるのもいいだろう。

伊藤校長：実は、水耕栽培は生徒会長の発案によるものである。これからは生徒会主体の事業を創り、先輩から後輩へ何かを残すということもできたらよいと思う。やがてこの栽培事業を空き教室で実践し、それを小中学校にノウハウを提供できると面白いと考えている。やがて収穫物を販売するところまでもっていくのが理想的である。

司 会：部活動について、野球部が単独で大会に出場できるのは嬉しいことである。

- 伊藤校長：現在、監督と相談しながら各選手の紹介一覧をホームページに掲載することを考えている。六郷高校に進学すれば即戦力として活躍できるというPR効果も期待できる。9月以降の中学校訪問などの機会での活用が期待できる。
- 鈴木委員：野球部について上位大会進出を考えるとすれば、軟式野球を導入するのはどうだろうか。中学校までの競技経験を活かすことができ、併せて上昇志向を促すことができると思う。写真部においては議会だよりに掲載する写真撮影で御協力をいただき、感謝を申し上げたい。引き続きよろしくお願ひしたい。
- 熊谷委員：自分の子どもが現在バスケットボール部に所属している。部員数は3年生が7名、2年生が8名で盛り上がりを見せる中、1年生の入部は残念ながら1名にとどまっている。部員数の確保に向けて練習試合だけではなく、地域のクラブチームを招いての活動をお願ひしたい。おそらくバドミントン部や野球部も同様だと思うので、ぜひ前向きに検討していただきたい。
- 西鳥羽委員：自分もバスケットボールの指導歴があり、よくクラブチームにお願ひした。ボールサイズも同じなので、頼めば相談に乗ってくれると思う。時間帯の問題もあるだろうが、休日にお願ひすればやっていただけるのではないかと思う。
- 司 会：部活動について、生徒の希望や保護者の意向を踏まえながら色々と考えていただきたい。時間の関係で残り3つの議題を一括して扱いたい。キャリア教育に関連したことについては応援態勢がしっかりしているので安心いただきたい。福祉科に関しては、施設との連携や地域人材の活用、さらには外部に向けてさらにどのように発信していくのかを考える必要がある。この点は、公開授業や生徒会を主体とした活動等、学校のPRとも関連してくる。まとめてご意見を出していただきたい。
- 檜森委員：六郷高校は県内で唯一の福祉科を有しているのだから、今まで以上のアピールは必要だろう。しかしよく耳にするのが、福祉科に入るのが難しいという声である。恐らく、このようなイメージが先行し、トライする前に諦めている生徒がいるのではないかと思う。この点についても考えていかなければならないと思う。
- 高橋委員：福祉の仕事は楽しいというPRを施設側からもっと発信していくべきだと考えている。実際、職員は楽しそうに、やりがいをもって仕事に臨んでいる。こうした情報発信をより積極的に行っていきたい。また、施設ボランティアや夏祭りの手伝い等、今後少しずつ募集の声かけができると思っている。その時には、お願ひしたい。
- 西鳥羽委員：4年前、本校を会場に中高の校長会が開かれた。その時、福祉科の実演を拝見したが、実に見事だった。努力して学び得たものの大きさに感動した。同時に卒業生が進学した各高校で学んでいる内容を知らなかったことにショックを覚えた。福祉科や福祉分野に進めるかどうかという不安を抱えている生徒たちが、その点をクリアしていくことに期待したい。また、進路実績のPRについて、やはり保護者は見てい

る。親が理解すると子どもを推してくれるので、積極的に進めた方がいい。

岩田委員：県内唯一の福祉科ということで県から生徒に経費の補助が行われているということを聞いたが、金額はどれくらいか。

福祉科長：資格を取って3年間施設で働くという条件で返済が免除される修学資金が30万円程度供与されている。周知しても国家試験に合格しなければ申し込む資格がないと誤解している生徒がいる。これを活用するのも1つである。

岩田委員：もし本校で修学資金制度に関して利用実績があれば、ホームページや福祉科だより等で周知してもいい。また、以前地区をまたいで福祉を学ぶために本校に入学した生徒がいた。進学理由を尋ねると立派に答えていたのが印象的だった。また、千葉県の松戸向陽高校福祉科に在籍している生徒がインタビューで福祉分野に進むことに対する自分の考えを堂々と答える動画が学校のホームページで公開されている。他県のこうした点を参考に本校でも実施してみてもいいと思う。また、横手地区の高校が統合する話が出ているが、現状として本校はどうなっているのか、可能な範囲で教えていただきたい。

伊藤校長：来春、鹿角地区に統合校が誕生する。現在の小坂高校、花輪高校、十和田高校が統合してできる学校である。また、横手地区の増田高校、平成高校、雄物川高校の統合校も予定されている。いずれ今後、地域に向けた説明会が開かれ、県として理解を求めていくことになるだろう。14年後の中学3年生の人数が現在の6割弱になってしまう。といった少子化の影響から、今後、高校の統廃合も進んでいくのではないかと考えられる。

司 会：生徒への支援や本校での様々な素晴らしい取組についての情報をいかに生徒や保護者に届けていくかが肝要になってくる。

藤岡委員：コロナ禍で窮屈だったこの3年でオンラインというツールが一般的になった。実際にオンラインを通して様々な人と交流をしていく形もできてきた。そこで本校の場合、福祉科がまず、全国や海外、特に福祉先進地域で北欧とICTを活用して交流の場をもつのも一案と考える。ICTの活用により、子どもたちに刺激と興味を与えていくことができればいいと思う。

司 会：時間の関係で全てを話題にできなかったが、本日に話し合った内容を今後活かしていただきたい。また、第2回、第3回へとつなげていくことができればいいと思う。

7 その他（事務局より連絡）

各部会の今年度の目標や今日の話し合いに関するご意見等を、添付しているFAX用紙にご記入の上、後日学校まで送付いただきたい。